

平成24年度 第2回建設資材対策東北地方連絡会宮城県分会

日 時 平成24年7月31日（火）
午後1時30分から3時30分まで
場 所 仙台市民会館 地下1階 展示室

次 第

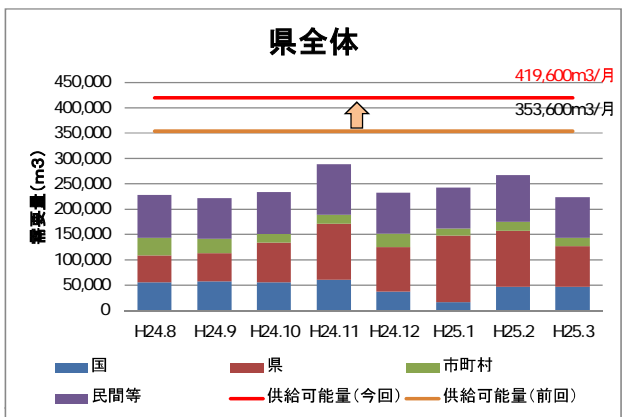
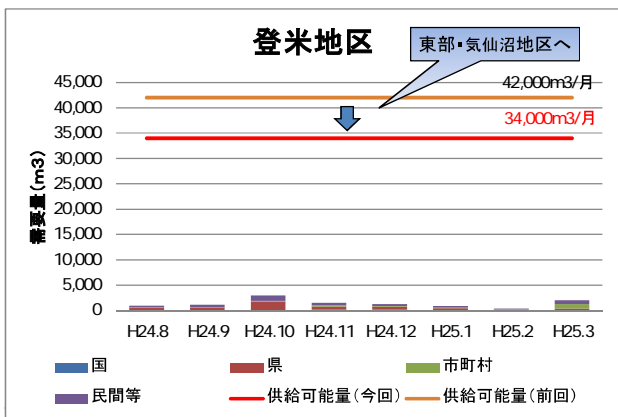
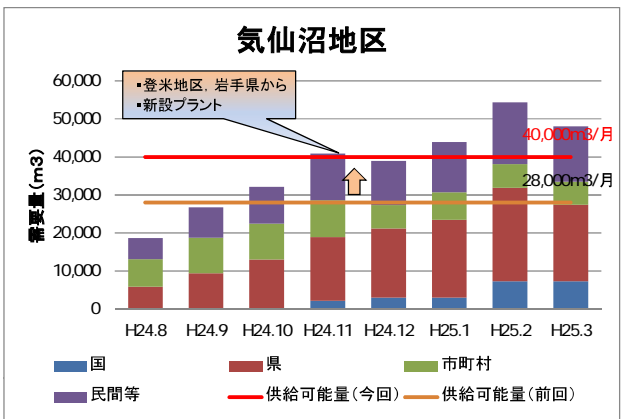
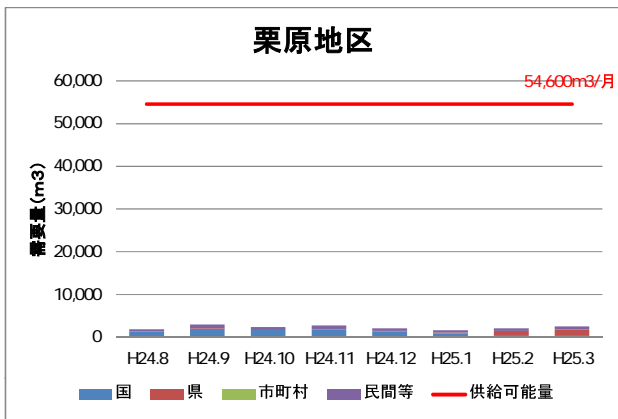
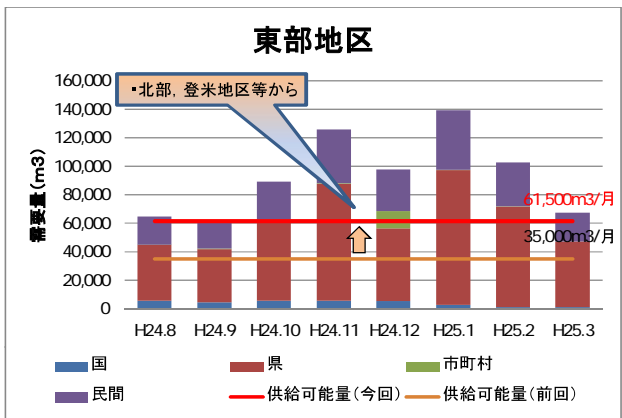
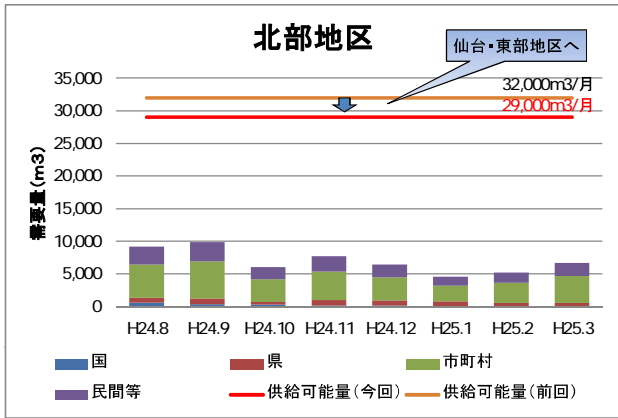
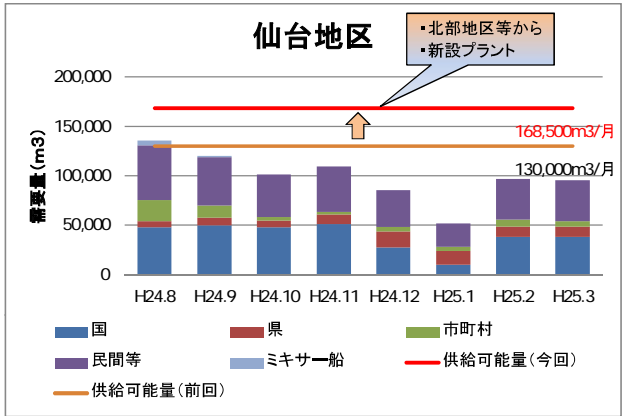
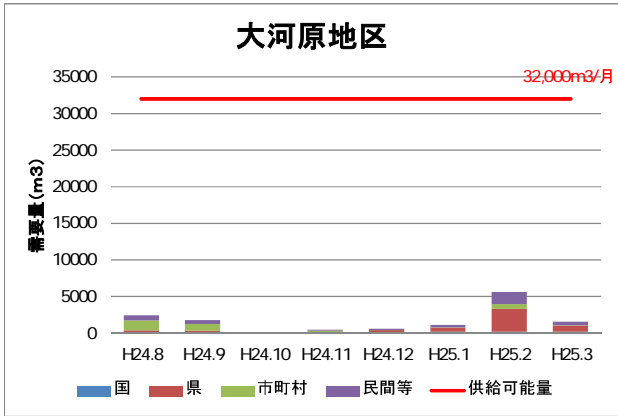
1. 開 会
2. あいさつ
3. 議 題
 - (1) 建設資材の需給見通しについて
 - (2) 地区連絡会議の状況報告について
 - (3) 建設資材の供給対策について
 - (4) 課題及び対応策について
4. 意見交換
5. 閉 会

【配付資料】

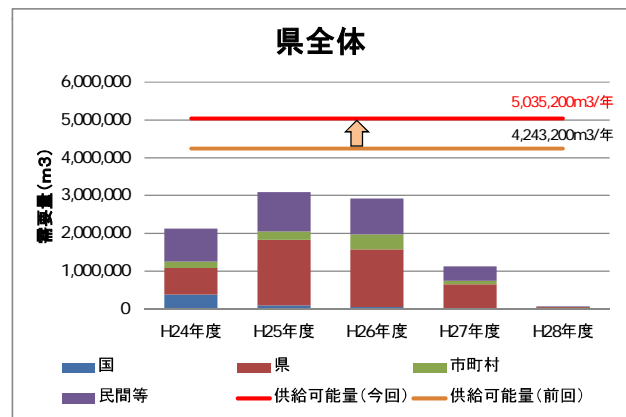
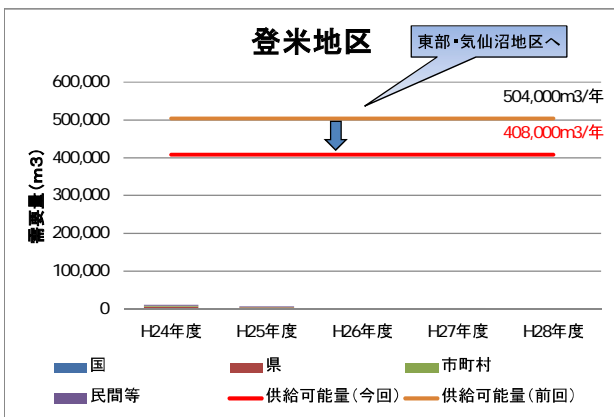
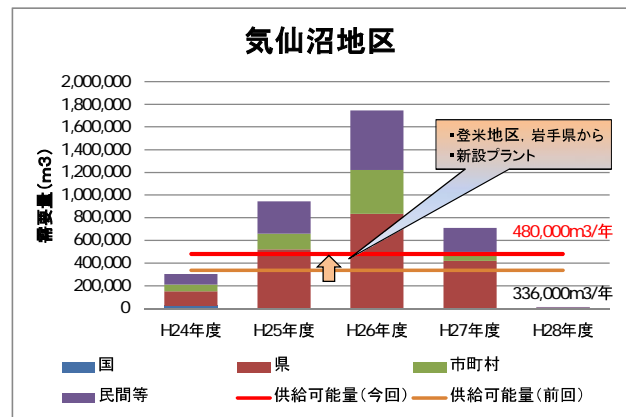
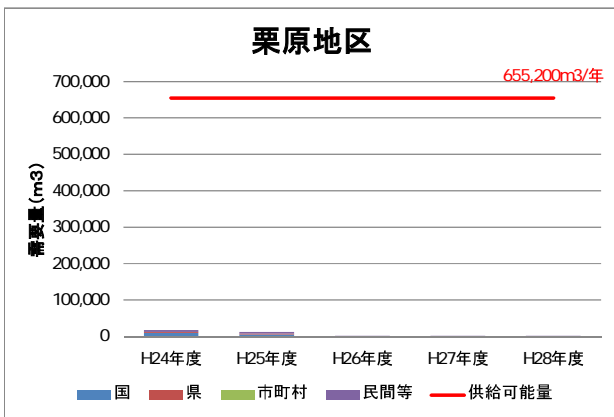
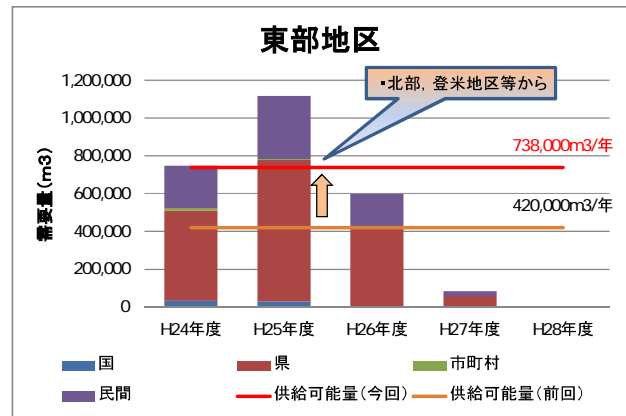
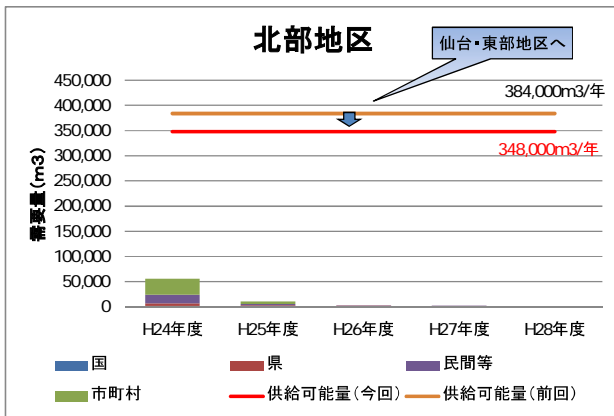
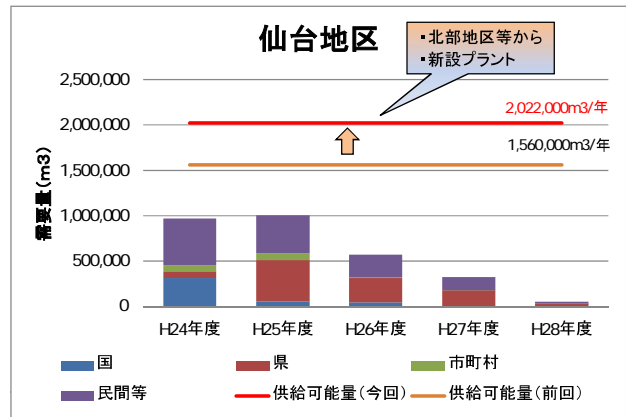
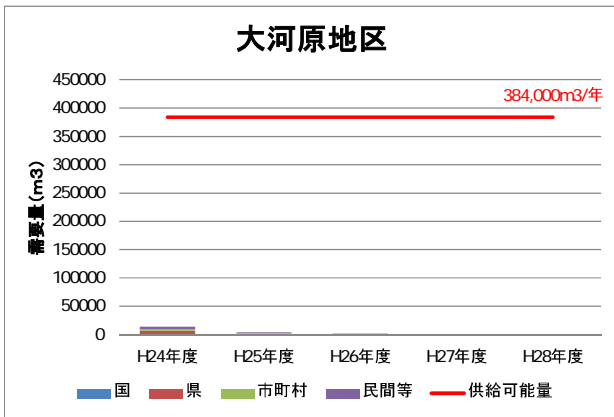
- 資料1 建設資材の需給見通しについて
- 資料2 地区連絡会議の状況報告について
- 資料3 課題及び対応策について
- 資料4 今後の検討，調整の進め方について

建設資材の需給見通しについて

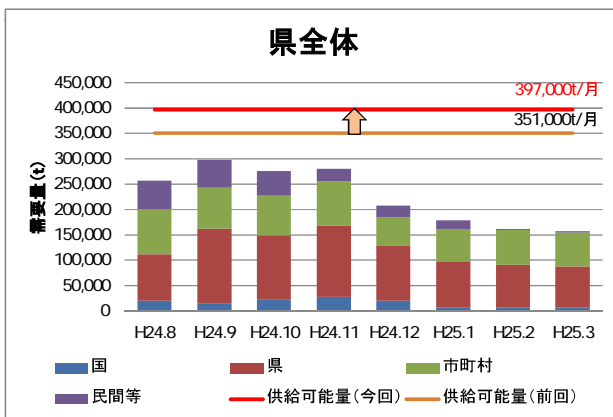
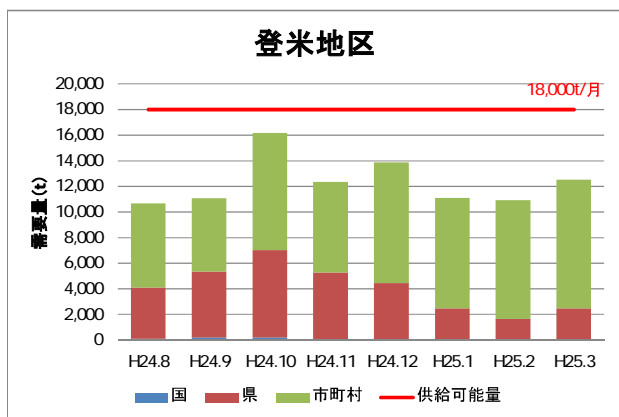
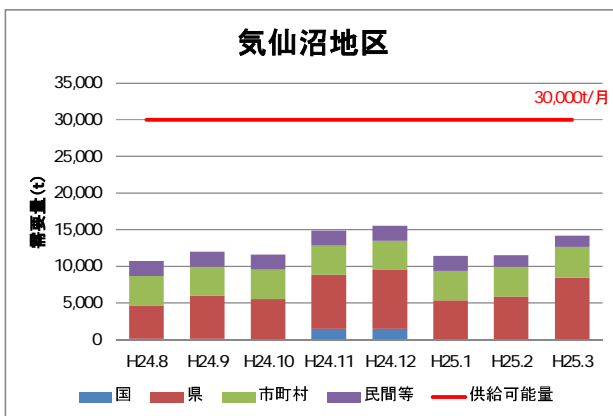
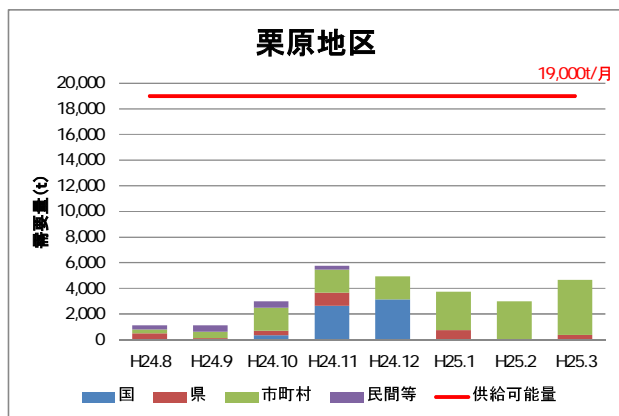
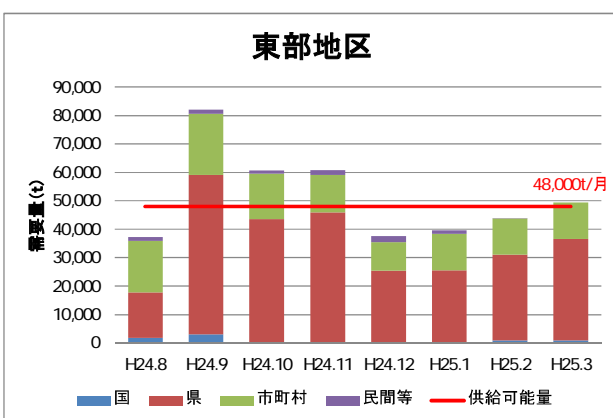
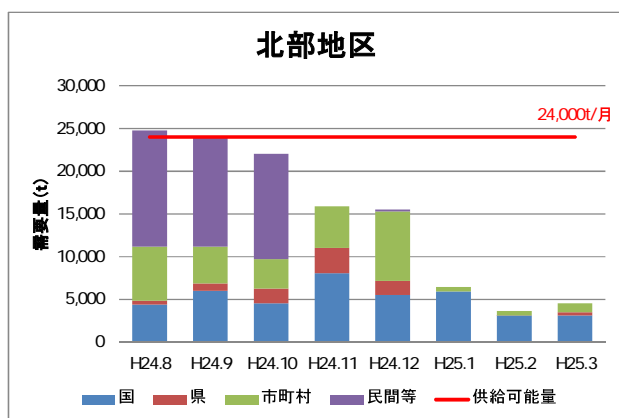
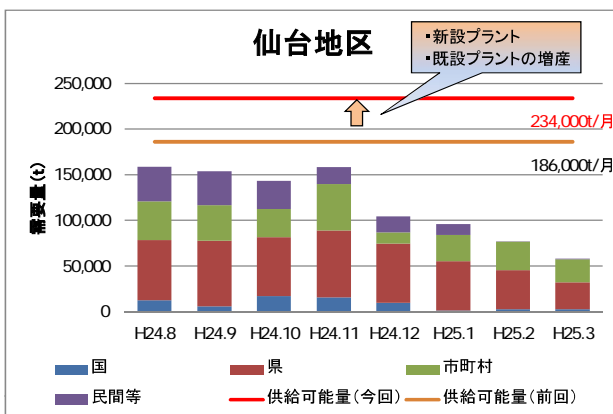
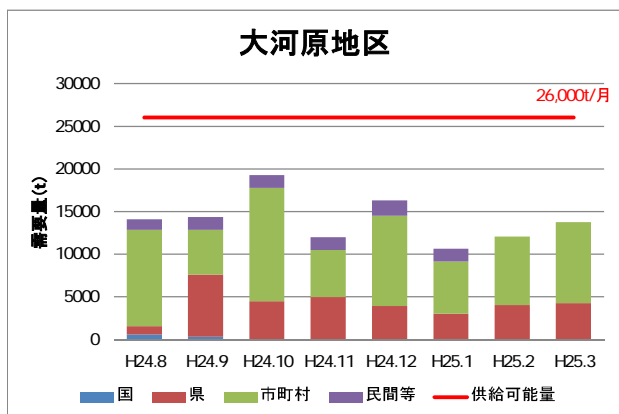
【生コンクリート】 H24.8～H25.3 概算需給量



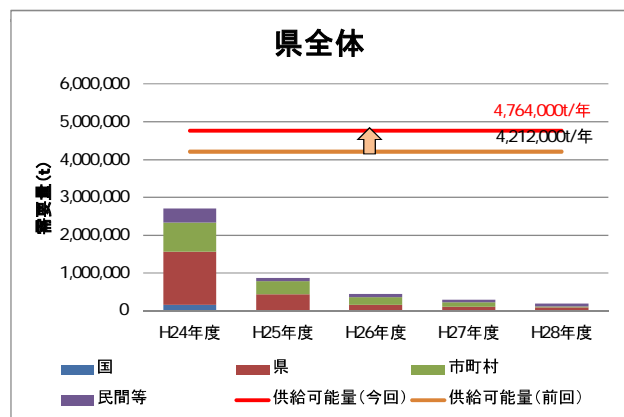
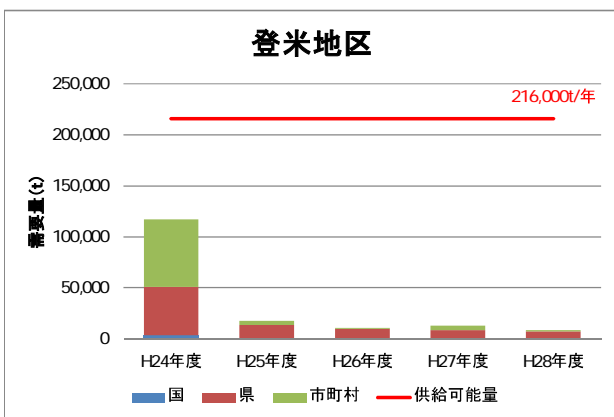
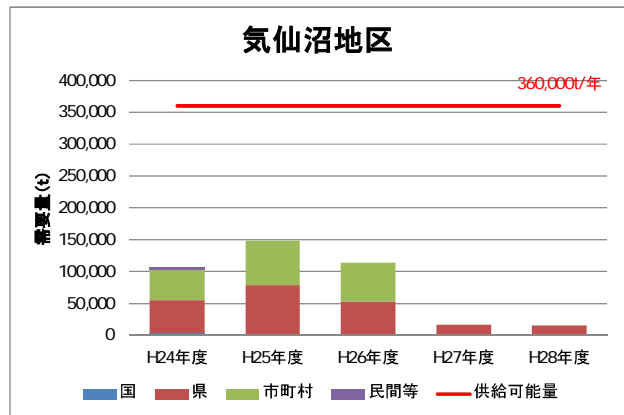
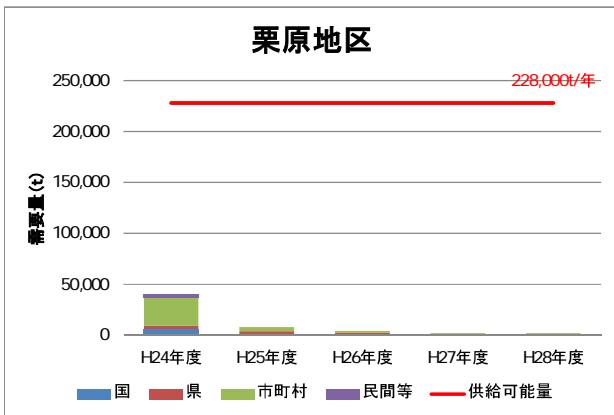
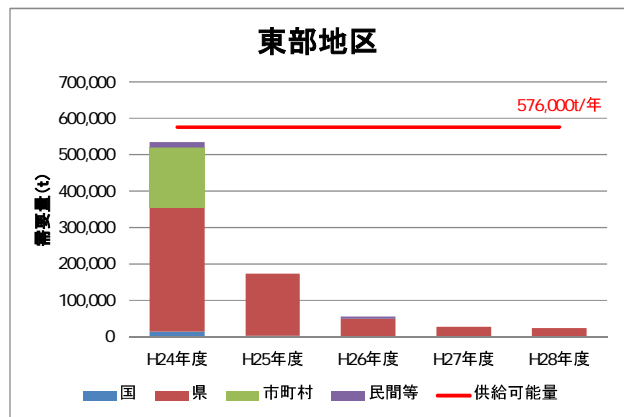
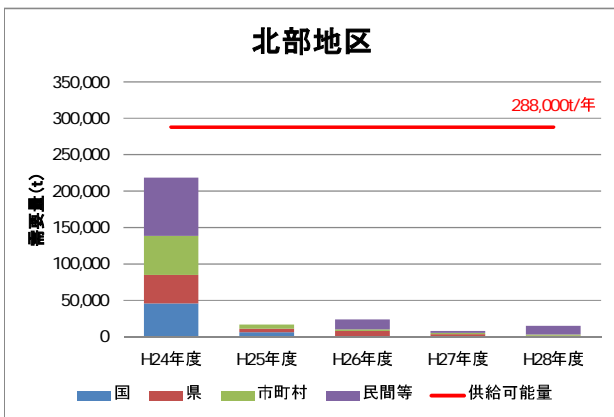
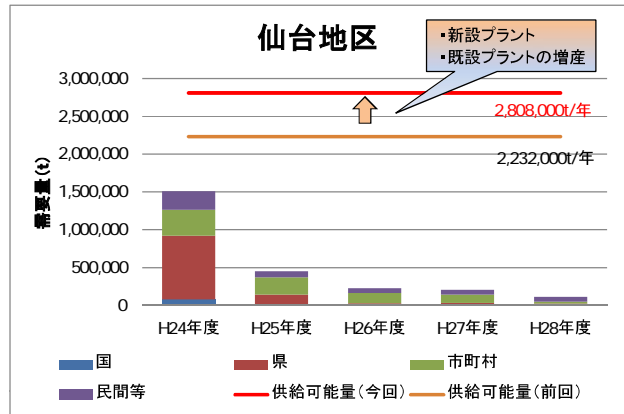
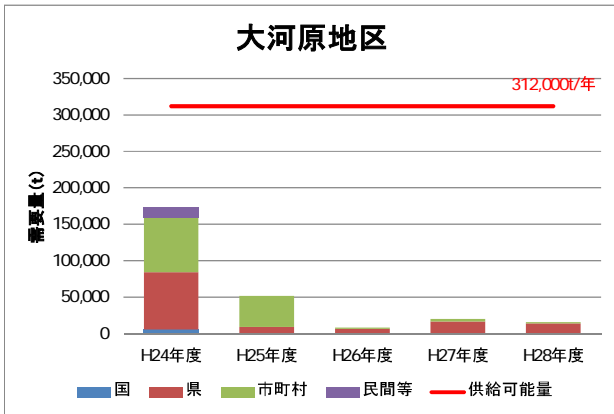
【生コンクリート】 H24～H28年度 概算需給量



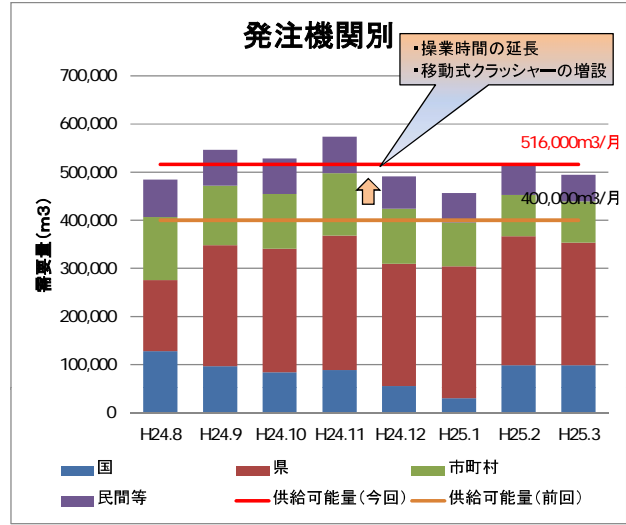
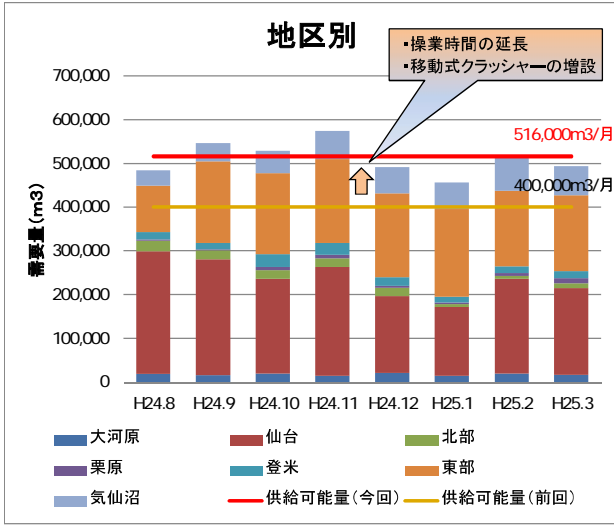
【アスファルト合材】 H24.8～H25.3 概算需給量



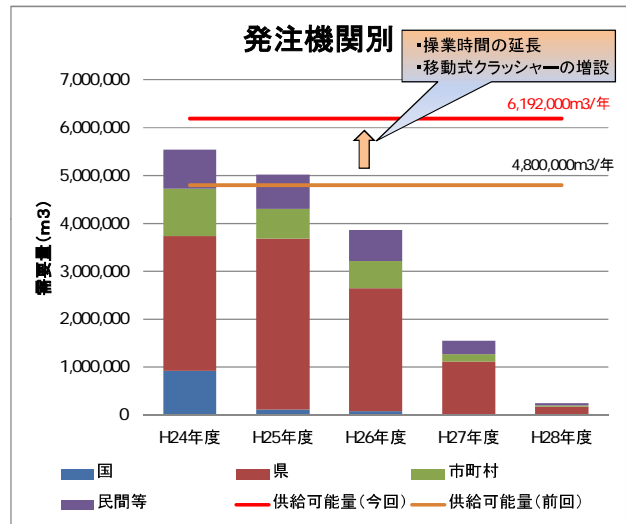
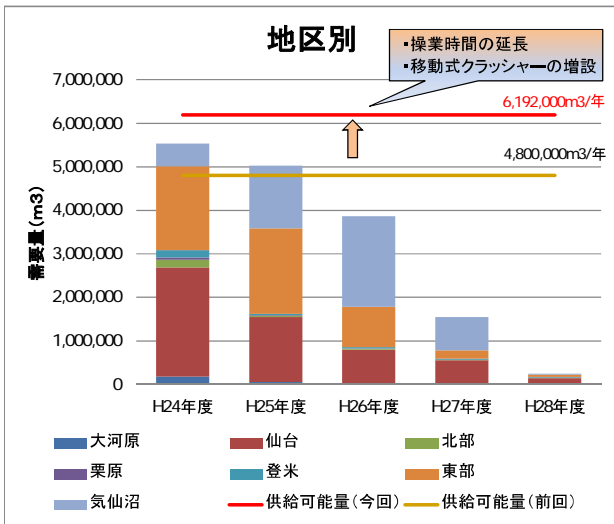
【アスファルト合材】 H24～H28年度 概算需給量



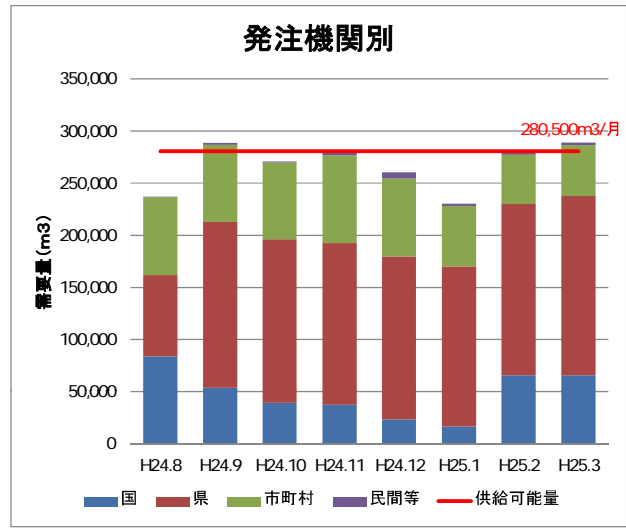
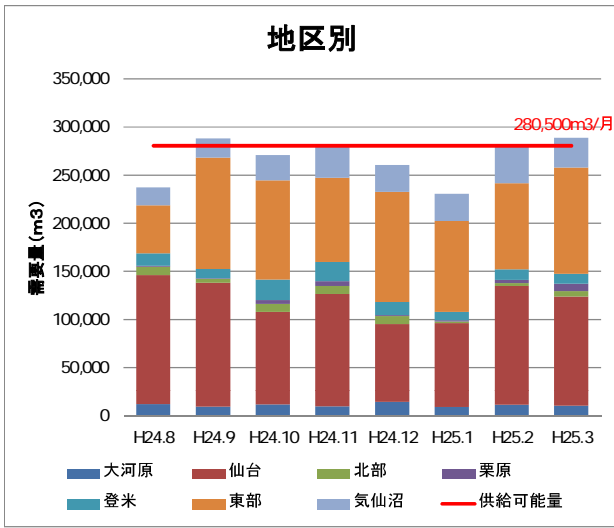
【砕石・砂 全体】 H24.8～H25.3 概算需給量



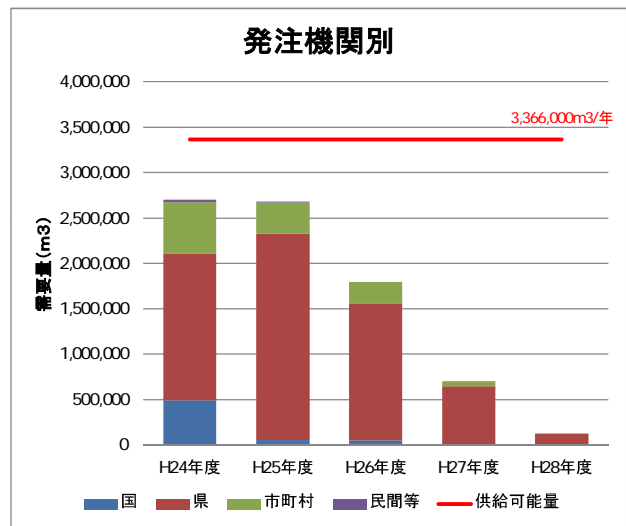
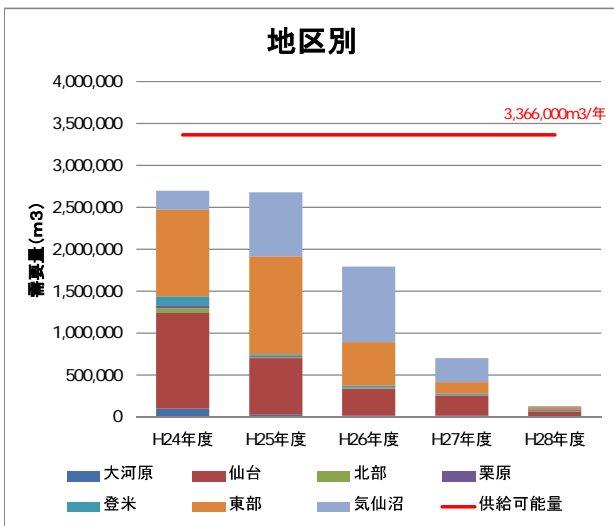
【砕石・砂 全体】 H24～H28年度 概算需給量



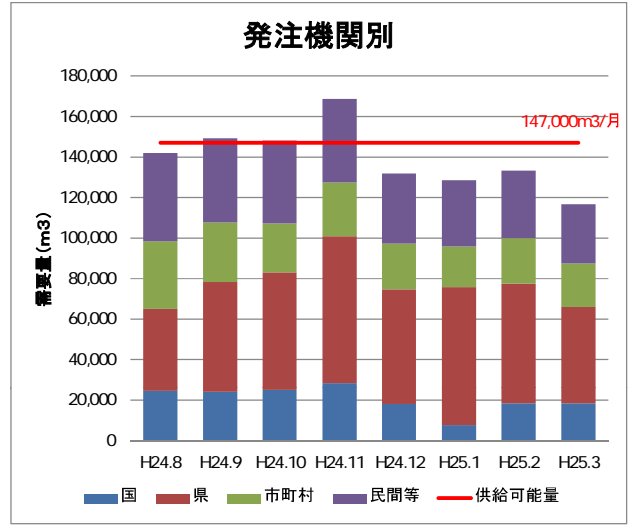
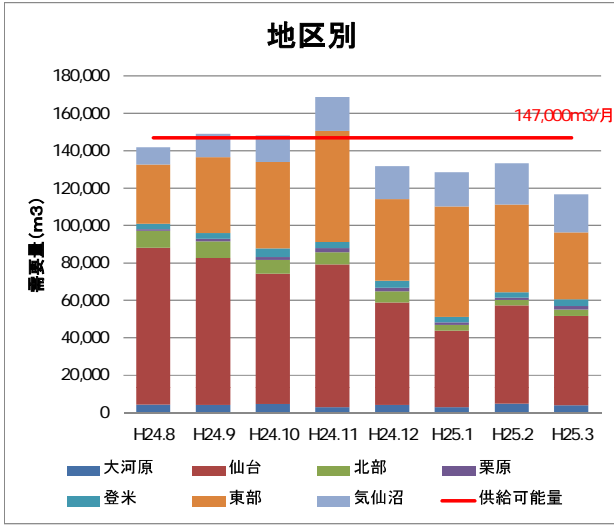
【碎石・捨石類】 H24.8～H25.3 概算需給量



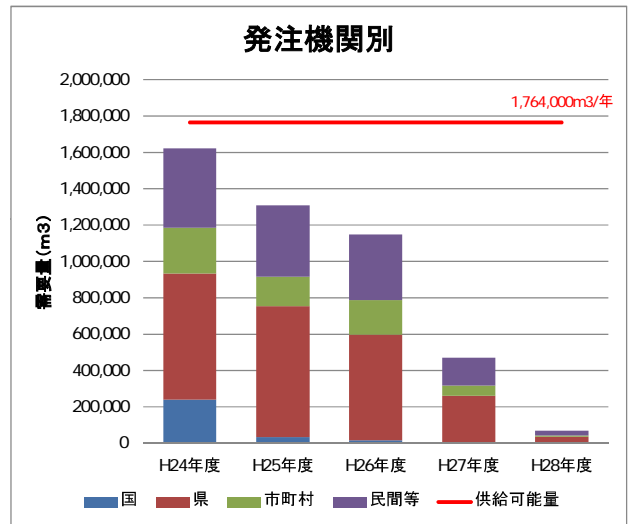
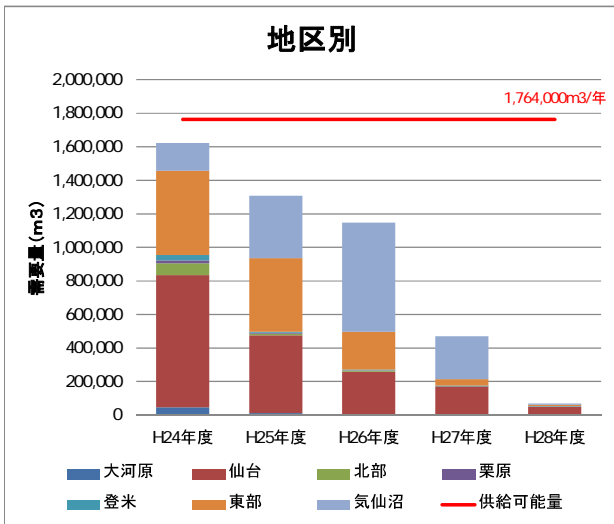
【碎石・捨石類】 H24～H28年度 概算需給量



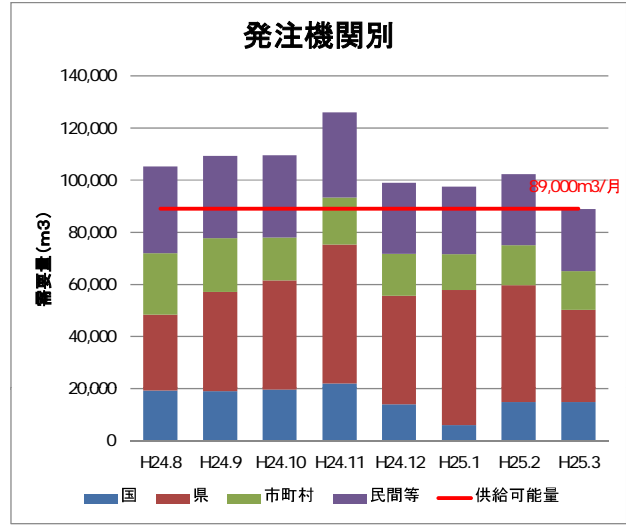
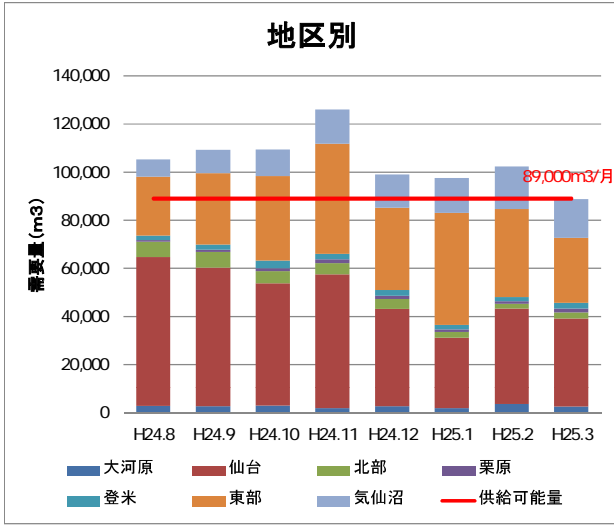
【砕石(生コンクリート・アスファルト用)】 H24.8～H25.3 概算需給量



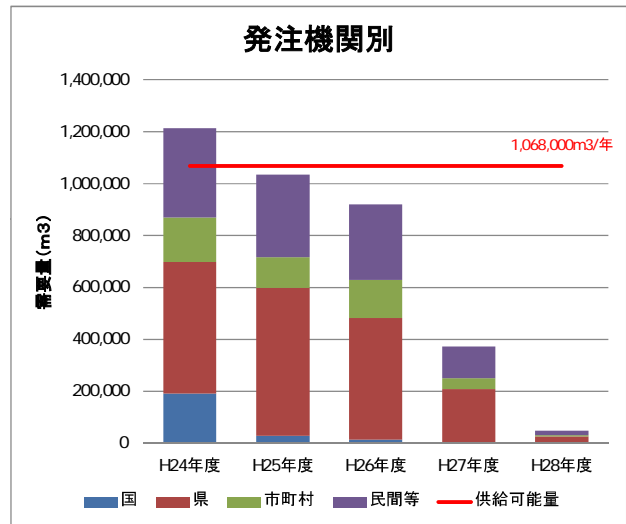
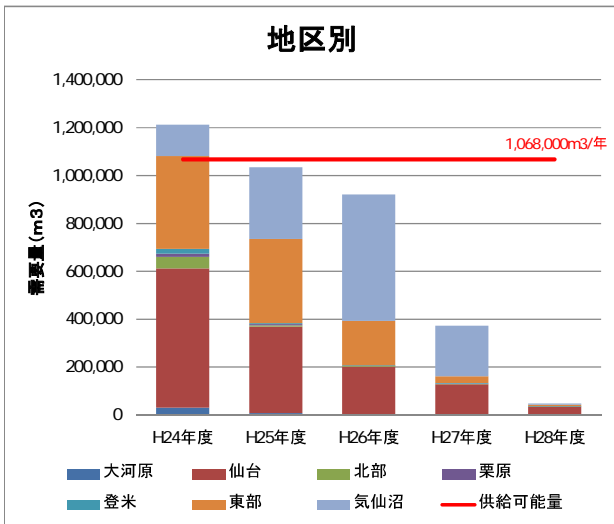
【砕石(生コンクリート・アスファルト用)】 H24～H28年度 概算需給量



【砕砂・洗砂(生コンクリート・アスファルト用)】 H24.8～H25.3 概算需給量



【砕砂・洗砂(生コンクリート・アスファルト用)】 H24～H28年度 概算需給量



需給量の集計方法について

1 需要量

(1) 生コンクリート

- ① 国 : 建設資材対策東北地方連絡会の需要量調査の数値
- ② 県・市町村 : 建設資材対策東北地方連絡会宮城県分会の需要量調査の数値
- ③ 民間等 : 宮城県道路公社, 東日本高速道路(株), 東日本旅客鉄道(株)の需要量とその他民間の需要量を合計した数値。前者は建設資材対策東北地方連絡会宮城県分会の需要量調査の数値。後者は官民比率を仙台地区は6 : 4, それ以外の地区は7 : 3と想定(業界からの聞き取り)して推計した数値

(2) アスファルト合材

- ① 国 : (1) ①と同様
- ② 県・市町村 : (1) ②と同様
- ③ 民間等 : 宮城県道路公社, 東日本高速道路(株), 東日本旅客鉄道(株)の需要量とその他民間の需要量を合計した数値。前者は建設資材対策東北地方連絡会宮城県分会の需要量調査の数値。後者は建設資材対策東北地方連絡会の需要量調査の数値。

(3) 砕石類

- ① 砕石・捨石類 : 上記(2)と同様
- ② 砕石(生コンクリート・アスファルト用)
: 上記(1)生コンクリートの需要量に生コンクリートに占める骨材類の割合(0.65を想定)を乗じて, さらに粗骨材の割合(0.55)を乗じて推計した数値と上記(2)アスファルトの需要量にアスファルトに占める粗骨材の割合(0.55)を乗じて推計した数値を合計した数値。
- ③ 砕砂・洗砂(生コンクリート・アスファルト用)
: 上記(1)生コンクリートの需要量に生コンクリートに占める骨材類の割合(0.65を想定)を乗じて, さらに細骨材の割合(0.45)を乗じて推計した数値と上記(2)アスファルトの需要量にアスファルトに占める細骨材の割合(0.35)を乗じて推計した数値を合計した数値。

2 供給可能量

各資材業界からの聞き取りによる数値

<前提条件>

- ・生コンクリート及びアスファルト合材については原材料が十分調達できること。

【鉄筋】地区別 概算需要量

(単位:t)

地区	H24.8	H24.9	H24.10	H24.11	H24.12	H25.1	H25.2	H25.3	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	摘要
大河原	355	150	9	48	44	97	119	57	513	260	70	0	
仙台	4,135	2,385	5,779	2,652	3,235	2,168	3,719	3,583	31,539	15,833	13,156	108	
北部	864	1,097	492	486	446	521	355	530	819	113	68	62	
栗原	0	37	2	0	2	12	33	8	0	0	0	0	
登米	11	219	25	79	61	19	4	75	379	644	655	640	
東部	661	1,028	626	925	898	676	799	791	7,178	2,242	3,147	1	
気仙沼	21	89	97	129	130	87	140	140	3,433	2,941	2,286	1,002	
合計	6,046	5,004	7,031	4,318	4,815	3,580	5,169	5,184	43,862	22,033	19,381	1,813	

【鋼矢板(本設)】地区別 概算需要量

(単位:t)

地区	H24.8	H24.9	H24.10	H24.11	H24.12	H25.1	H25.2	H25.3	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	摘要
大河原	0	0	0	0	0	0	0	0	200	0	0	0	
仙台	3,598	1,530	3,669	10,703	3,218	322	3,552	4,602	26,946	17,170	12,268	2,978	
北部	0	33	0	0	20	0	40	29	0	0	0	0	
栗原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
登米	0	0	0	12	0	0	0	0	60	0	0	0	
東部	2,419	1,889	3,875	1,421	1,724	2,668	2,629	3,299	67,699	29,962	6,407	0	
気仙沼	0	2,476	1,150	313	234	235	238	239	20,284	27,890	10,445	0	
合計	6,017	5,928	8,694	12,449	5,196	3,225	6,459	8,169	115,189	75,022	29,120	2,978	

災害復旧工事等に伴う仮設鋼矢板使用見込み(平成24年度～平成25年度)

【県・市町村分】

型	区分	単位	平成24年度												平成25年度												備考
			8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
			需要量	t	577	1,264	1,826	2,308	2,308	2,308	1,815	1,814	1,900	1,673	1,714	1,472	1,049	984	873	813	813	926	926	926	926		
供給量	t	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000					
供給率	%	867%	396%	274%	217%	217%	275%	276%	276%	253%	299%	292%	340%	477%	508%	573%	615%	615%	540%	540%	540%	540%					
需要量	t	1,991	2,968	4,447	5,399	25,963	25,248	25,398	31,035	38,229	38,638	38,599	38,307	37,778	44,061	45,413	44,023	44,395	44,183	44,375	44,313						
供給量	t	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000	61,000						
供給率	%	3064%	2055%	1372%	1130%	235%	242%	240%	197%	160%	158%	158%	159%	161%	138%	134%	139%	137%	138%	137%	138%						
需要量	t	1,121	3,826	4,044	4,260	4,763	5,636	6,494	6,599	12,051	11,516	13,398	13,322	12,718	17,529	18,195	17,594	17,981	18,131	18,131							
供給量	t	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000						
供給率	%	2676%	784%	742%	704%	630%	532%	482%	455%	249%	261%	224%	225%	236%	171%	165%	171%	167%	167%	165%	165%						
需要量	t	0	1,488	1,488	6,171	6,171	9,396	9,396	9,396	29,826	29,826	29,826	29,826	29,216	38,768	38,768	38,768	38,768	38,768	38,768							
供給量	t	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000						
供給率	%	#DIV/0!	269%	269%	65%	65%	43%	43%	43%	13%	13%	13%	13%	14%	10%	10%	10%	10%	10%	10%	10%						
需要量	t	3,689	9,546	11,805	18,138	39,205	42,095	43,102	49,010	81,779	81,694	83,295	82,504	80,696	101,231	103,189	101,198	102,070	101,858	102,200							
供給量	t	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000						
供給率	%	2711%	1048%	847%	551%	255%	238%	232%	204%	122%	122%	120%	121%	124%	99%	97%	99%	98%	98%	98%	98%						

■ 地区連絡会議の状況報告について(1/2)

地区	区分	現 状	課 題	対 応 策 (案)
仙台	需要側	震災復興に関する工事を受注した県外本社の業者から資材入手が困難との情報がある。	信頼関係等から取引実績のない業者への資材提供を受けない場合があると考えられる。	必要があれば業界への聴き取り調査等を行い、実態を把握した上で県としての対応を決定する。
		生コンの供給が困難となっており、納入日程の調整がしにくい。	コンクリート打設の日程がつかず、工期の遅れが生じる可能性がある。	可能なものは二次製品への変更を行う。 状況によっては現場練りを行う場合も想定され、その品質確保等への施工計画、指針を提示する必要がある。
		盛土材等の設計単価と実勢単価に乖離が生じてきている。	資材単価の上昇により、施工業者の負担が増加する可能性がある。	資材単価の動向確認を行い、適宜単価見直しを実施。状況に応じたスライド条項の適用を行う。
		砕石についても不足し、実勢価格との乖離があるとの情報がある。	必要な砕石の確保が困難となり、工事の進捗が見込めなくなる。	現場でのコンクリート廃材の使用促進等ができないか。(使用材料によっては、品質の確保が難しくなる。)
		災害復旧等の工事発注が増加してきており、建設資材の入手が困難となっている。	実施価格の乖離により請負者の負担が増加する。	複数の砕石場からの承諾願いにより、工事発注状況により供給を補足する。
	供給側	河川、海岸工事や住宅団地整備等の復旧・復興工事が徐々に発注されてきており、盛土材の使用量が今後も増加していく。	資材入手困難を理由に応札しない工事が発生する可能性がある。復旧工事に遅れを生じる。	必要に応じて、業界への協力要請及び調整を実施する。災害復旧工事等の発注時期及び供給時期の平準化が図れないか。
		工事発注に伴う生コンの出荷量の増加が見込まれる。	盛土材の供給箇所が集中し、交通渋滞を引き起こすと共に、所要時間の増加に伴う作業効率の低下及び工事に遅れを生じる可能性がある。	災害廃棄物や長距離箇所の土砂及び土壌改良等による土砂の再利用を進める。 各事業主体事の盛土材需給調整。(実際の工事箇所が多くなるため、調整は難しい。)
		生コンの骨材不足に関する情報がある。	アジテーター車や土砂、砕石等の運搬ダンプが不足し、円滑な工事計画が策定できなくなる。	地域における計画的な出荷計画調整を行う。 コンクリート二次製品への変更に加え、施工者の承認願いを柔軟に行う。
		護岸工事や橋梁工事等による仮設材の使用が今後増加すると思われる。(特に非出水期)	生コンプラントによっては、出荷調整を行っているとの話もあり、施工業者の必要な時期に生コンの出荷ができない。	生コン生産に向けた資材確保のための情報収集及び提供。 遠隔地からの材料入手を可能とし、単価に反映させる。
		全体的に今後の工事発注における資材需要が不透明である。	河川等の工事は施工期間が限定されるため、仮設資材使用時期が集中し、不足すると考えられる。 汎用品と特注品にアンバランスが生じる。 急な資材購入となった場合の生産に時間を要し、復旧・復興工事の遅れの可能性がある。	仮設資材所有メーカー間による供給調整ができないか。 使用実績、実状にあわせて仮設材の設計変更を認めてほしい。

■ 地区連絡会議の状況報告について(2/2)

地区	区分	現 状	課 題	対 応 策 (案)
東 部	需要側	<ul style="list-style-type: none"> ・資材の需要量データの不足 ・瓦礫処理や工事関係車両による渋滞の発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・需要量の把握と平準化 ・資材供給が遅れた場合の工程調整 ・一般住民から苦情の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係する発注機関のデータを確実に収集・整理し、地区連絡会議に提供 ・民間の需要データも反映 ・工程を員据えた供給側との事前調整 ・発注者から受注者に運転マナーや安全教育の徹底についての指導
	供給側	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおりの資材搬入が車両不足や渋滞などにより困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・供給可能量(特に骨材)の精査 	<ul style="list-style-type: none"> ・運搬車両の確保、輸送にかかる所要時間などを考慮した供給可能量による需要側との調整
	需要側	建設資材の動向と需給見通し(H.24.6.28現在) 気仙沼土木、気仙沼地方振興水産漁港部、気仙沼市及び南三陸町の集計結果は次のとおり ○砕石は、H26のピーク時で40万m3(供給可能量36万m3/年) ○アスファルト合材は、H25のピーク時で15万t(供給可能量36万t/年) ○生コンは、H26のピーク時で122万m3(供給可能量34万m3) ※国土交通省や林野庁の需要見通しは、具体的には提示されなかったものの、それが加算されると一層厳しさが増すこととなる。	<ul style="list-style-type: none"> ○砕石の安定供給(出荷時期の集中が懸念される) ○アスファルト合材の安定供給(出荷時期の集中が懸念される) ○生コンの安定供給 ○気仙沼大島内の需要量が災害復旧や大島架橋関連で約15万m3が必要となる。大島浦の浜港は吃水が浅いためコンクリートプラント船の入港が困難であり現地への簡易バッチャプラントが必要と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生コングリート組合において、大島内への簡易バッチャプラント設備を検討中
気仙沼	供給側	資材業界からの情報提供 ○砕石は北部地区(登米・栗原・気仙沼)で72万m3/年の供給能力があり、不足する地域へ運搬することでカバー出来る。また、供給量は最大で5割増しまで増産が可能。 ○アスファルトは供給能力的に問題はない。 ○生コンは、現在の供給能力としては34万m3/年であるが、他地域からの応援や新規プラントの増設等により、4.8万m3/年まで向上させる予定(H25.1迄)これが限界である。	<ul style="list-style-type: none"> ○資材運搬に伴う交通渋滞の発生が懸念 ○アスファルト生コンとも材料の細砂の調達が多々困難 ○災害復興のための生コン供給取り組み ○生コン業界として今後の課題 ・骨材の確保 ・交通渋滞 ・打設時期の問題 ・打設が午前中に集中 ・材料高騰による生コン単価の上昇 	<ul style="list-style-type: none"> ○生コン供給のための取り組み状況 ・千厩地区及び登米地区から供給応援 ・大崎協組・東北協組からの生コン車応援 ・備車の確保 ・歌津プラントの設置 ・大島プラントの設置

需給量調査結果を踏まえた課題と対応策

品目：生コンクリート

1. 現 状

(1) 需要量

○ H24.8 ～ H25.3

- ・県全体では、需要の高い11月、2月（25～30万 m³/月）を除き20～25万 m³/月の間で安定して推移。
- ・地区別では、東部地区で10月から2月までの間で需要が高く（8～14万 m³/月）、気仙沼地区では11月以降需要が高い（4～5万 m³/月）。

○ H25 ～ H28 年度

- ・県全体では、H25～H26年度に需要が高い（2～3百万 m³/年程度）。
- ・地区別では、東部地区でH25～H26年度に需要が高く（H25年度に最大で百万 m³/年超）、気仙沼地区ではH25～H27年度まで需要が高い（特にH26年度は170万 m³/年強）。

(2) 供給可能量（増量分）

- ・県全体では、第1回宮城県分会（H24.5.23）以降、他県からの融通やプラントの新設等により79万 m³/年（約2割）供給能力アップの見通し。
- ・地区別では、仙台地区46万 m³/年（約3割）、東部地区32万 m³/年（約7割）、気仙沼地区14万 m³/年（約4割）増加するが、一方、北部地区及び登米地区では沿岸地区に融通するため、若干減少する。
- ・供給可能量は、材料となる骨材の安定供給、製品を運ぶ生コン車が制約とならないことが前提条件。

(3) 需給見通し

○ H24.8 ～ H25.3

- ・県全体では供給可能。
- ・地区別では、東部地区で10月から2月までの間で需要量が供給能力を超過（1月には最大で約8万 m³/月）。気仙沼地区では1月以降需要量が供給能力を超過（2月には最大で約1万 m³/月超）。

○ H25 ～ H28 年度

- ・県全体では供給可能。
- ・地区別では、東部地区でH25年度に需要量が供給能力を超過（約30万 m³/年超）。気仙沼地区ではH25～H27年度まで需要量が供給能力を超過（特にH26年度は約120万 m³/年）。

2. 課 題

○ H24.8 ～ H25.3

- ・東部地区において、10月以降に予想される供給不足（最大で約8万 m³/月）への対応が必要。
- ・気仙沼地区において、1月以降に予想される供給不足（最大で約1万 m³/月超）への対応が必要。

○ H25 ～ H28 年度

- ・東部地区において、H25年度に予想される供給不足（約30万 m³/年）への対応が必要。
- ・気仙沼地区において、H25～H27年度に予想される供給不足（最大でH26年度の約120万 m³/年）への対応が必要。

3. 対応策

【当 面】

- 材料となる骨材（砕石、砂）の安定供給体制の構築
- 地区連絡会における詳細な需要情報の共有化、出荷時期等の調整
- 沿岸部の大規模工事におけるミキサー船の活用
- 災害復旧事業の協議設計等において、設計内容の見直し等によるコンクリート二次製品の利用拡大

【中 期】

- 沿岸部の大規模工事（国直轄工事を含む）における仮設プラントの設置、ミキサー船の更なる活用

品目：アスファルト合材

1. 現 状

(1) 需要量

○ H24.8 ～ H25.3

- ・ 県全体では、8月から11月まで比較的高く（25～30万t/月）、12月以降は比較的低い（15～20万t/月）。
- ・ 地区別では、北部地区で8月から10月まで比較的高い（2～2.5万t/月）ものの、11月以降は漸減。東部地区では9月から11月まで需要が高い（6～8万t/月）。仙台地区でも8月から11月まで比較的高く（15万t/月程度）、その後は漸減。

○ H25 ～ H28 年度

- ・ 県全体では、H24年度が最も需要が高く（200～300万t/年）、H25年度以降は減少（100万t/年以下）。
- ・ 地区別でも傾向は同様であるが、気仙沼地区ではH26年度まで高い需要が継続（最大はH25年度の約15万t/年）。

(2) 供給可能量（増量分）

- ・ 仙台地区において、第1回宮城県分会（H24.5.23）以降、プラントの新設や増設により58万t/年（約3割）の供給能力が増えている。
- ・ 供給可能量は、材料となる骨材の安定供給、製品を運ぶ生コン車が制約とならないことが前提条件。
- ・ これと合わせて、県内での融通体制を構築。

(3) 需給見通し

○ H24.8 ～ H25.3

- ・ 県全体では供給可能。
- ・ 地区別では、北部地区で8～10月までの需給が逼迫し、東部地区では9～11月までの間で需要量が供給能力を超過（9月には最大で約3万m³/月）。

○ H25 ～ H28 年度

- ・ 県全体では供給可能。
- ・ 地区別でも、H25年度以降は需要が減少するため供給に支障なし。

2. 課 題

○ H24.8 ～ H25.3

- ・ 北部地区において、8～10月までの需給逼迫への対応が必要。
- ・ 東部地区において、9～11月までの間に予想される供給不足（最大で約3万m³/月）への対応が必要。

3. 対応策

【当 面】

- 材料となる骨材（砕石、砂）の安定供給体制の構築
- 地区連絡会（特に東部地区、北部地区）における詳細な需給情報の共有化、出荷時期等の調整
- 隣接地区から東部地区への更なる安定供給の確保

品目：碎石類（碎石、捨石、骨材、砂等）

1. 現 状

(1) 需要量

○ H24.8 ～ H25.3

- ・ 碎石類全体では、8月から11月まで比較的高く（50～60万 m³/月）、12月以降は若干低い（50万 m³/月以下）。
- ・ 品目別では、碎石・捨石類は年間を通じて安定し（25～35万 m³/月）、生コン・As 合材用の骨材は8～11月まで比較的高く（14～16万 m³/月）、12月以降は比較的低い（12～13万 m³/月）。砂類は8～11月まで比較的高く（10～12万 m³/月）、12月以降は低い（9～10万 m³/月程度）。

○ H25 ～ H28 年度

- ・ 碎石類全体で、H25～H26年度まで需要は高い（約400～600万 m³/年）が、H27年度以降は減少。
- ・ 品目別でも同様の傾向。

(2) 供給可能量（増量分）

- ・ 碎石類全体で、第1回宮城県分会（H24.5.23）以降、作業時間の延長や移動式クラッシャーの導入により約12万 t/年（約3割）の供給能力が増えている。

(3) 需給見通し

○ H24.8 ～ H25.3

- ・ 碎石類全体で、年間を通じて需給が逼迫しており、特に8～11月までは厳しい状況。
- ・ 品目別では、特に砂が年間を通じて需要量が供給能力を超過（11月には最大で約3万 m³/月）している。

○ H25 ～ H28 年度

- ・ 碎石類全体で、H25～H26年度まで需給が逼迫。H27年度以降は需給が安定。
- ・ 品目別でも、特に砂において同様の傾向。

2. 課 題

○ H24.8 ～ H25.3

- ・ 碎石類全体、特に砂において、需給逼迫への早急な対応が必要。

○ H25 ～ H28 年度

- ・ 碎石類全体、特に砂において、H25～H26年度までの需給逼迫への対応が必要。

3. 対応策

○品目別の需給見通しを踏まえた生産調整、県内融通の効率化

○移動式クラッシャーのさらなる導入による増産

○材料となる骨材（碎石、砂）の安定供給体制の構築

- ・ 県内からの供給に支障が生じつつある現状を踏まえ、県外調達ルートを確保

・ さらなる課題

①港湾の荷揚げ施設（仙台・塩釜港、石巻港、気仙沼港）となるバースの確保

②資材の仮置き場となるストックヤードの確保

③ユーザーとなる生コンプラントまでの配送体制

④積算価格への反映方法の確立

今後の検討, 調整の進め方について

